

ローマ字・仮名・漢字の読み取りくらべ

さてここで、日本道路公団が今から20年ほど前に実験したことについて、述べたいと思います。日本で初めての自動車道、名神高速道路は、名古屋と神戸との間に建設されたのですが、それに先立って、ローマ字と仮名と漢字による表記の読み取り速度を調べる実験をしています。同じ内容のものを三様の表示板に作りまして、それぞれを何秒で読み取れるか、ということ进行调查したわけです。これは写真のシャッターを押すような仕掛に作られていて、露出時間を変えることによって読み取りの速度を計るわけです。この調査によりますと仮名はローマ字のおよそ半分の時間で読み取ることが出来ます。つまり、ローマ字は、仮名の二倍もの時間がかかる。ところが、漢字で書かれたものは、仮名の十分の一の時間で読み取れるのです。これは平均値が出ていましたが、仮名の場合は、0.7秒、ローマ字ですと1.5秒、それが漢字ですと0.06秒で読み取れる。こういうことでした。これはその後、前・東京大学工学部教授、渡辺茂先生の実験により、漢字はもっと短

時間で読めることがわかりました。渡辺先生は『漢字と図形』という本を書かれていらっしゃいますが、その中で、漢字は0.06秒どころか、もっともって僅かの時間で読み取れる、ということを書いていらっしゃいます。渡辺先生の場合は、暗室に漢字のカードを置きまして、そこで電燈を点滅することによってそれを読み取る時間を測定するのです。これだと、0.00何秒というように極少時間点燈させることが可能なのだそうでありまして、そうしますと、もうどんなに僅かな時間の点燈でも漢字が読み取れる、ということでもあります。ともかく漢字は、現在世界で使われているどんな文字よりも、内容を正確に、速く読み取ることが出来る文字であるということは、この実験によって明瞭である、ということが出来ると思います。